

⑦ 高校生による復興公営住宅のコミュニティ形成支援活動

受賞機関 福島県

キーワード 復興公営住宅、コミュニティ形成、高校生による活動

全建賞審査委員会の評価ポイント

福島県の復興公営住宅において、高校生が団地の広場に鳥の巣やクリスマスイルミネーションを設置したり、屋外家具の製作を行い、入居者同士のコミュニティ形成のきっかけづくりを行った取組み。東日本大震災における被災者向け公営住宅を核として、次世代を担う高校生を中心に、小中学生まで含めた活動により、地域における絆の形成への契機となった点が評価された。

1. はじめに

福島県では原子力災害により長期避難を余儀なくされた避難者向けの復興公営住宅や避難指示が解除された地域への帰還者向け住宅団地の整備を最重要課題として取り組んできた。

本活動は復興公営住宅や帰還者向け住宅団地に住む高齢者の孤立防止や、住民が交流するきっかけづくりになることを期待して実施した取組である。

2. 事業の概要

1) 平成29年度の活動

県立勿来工業高校建築科の生徒5名が県営勿来酒井団地に鳥の巣箱と餌台を各5個製作し、設置した。

2) 平成30年度の活動

- ・ 県立勿来工業高校建築科の生徒8名が県営勿来酒井団地の桜の木5本にクリスマスイルミネーションを飾り付けた。
- ・ 県立勿来工業高校、県立郡山北工業高校、県立会津工業高校、県立喜多方桐桜高校の建築科の生徒計39名が大熊町大川原地区の帰還者向け住宅団地に設置する屋外家具を製作した。



コモン広場に鳥の巣箱と餌台を設置

3. 事業の成果

復興公営住宅である県営勿来酒井団地には様々な避難元から入居者が集まり、高齢者も多く住んでいることから、入居者同士のコミュニティ形成が課題となっていた。そこで入居者の交流を促すため、地元高校生のアイデアで鳥の巣箱と餌台の設置を行い、翌年、訪問してアンケートを実施した。アンケート結果によると、「鳥の巣箱があることにより交流が生まれた。」「高校生と話すことによって元気をもらった。」等の回答を得た。

アンケート結果を踏まえ、さらなる交流のきっかけづくりを目指し、クリスマスに合わせて団地の中央広場に並ぶ桜の木を、イルミネーションで彩ったところ、入居者から喜びと感謝の声が寄せられた。

また、今春、避難指示が解除された大熊町の帰還者向け住宅団地を対象に、コミュニティ形成の手助けとなるように屋外家具の設置を企画した取組では、県内全域から4校が参画し、各校工夫を凝らした作品が完成した。

特に、製作を行う過程で地元大熊町出身の小中学生と協力して家具に装飾を施すといった発想が生まれるなど活動は予想外の広がりを見せた。

これらの技術指導には設計者、施工業者、福島県木材協同組合連合会、一般社団法人福島県電設業協会が関わっており、【産】【学】【官】が連携してコミュニティ形成の支援を行うことができた。



屋外家具の製作

4. おわりに

今後の復興を担う若い世代にコミュニティ形成を支援してもらおうことで、より一層復興が加速すると考える。

最後に設計者、施工業者、福島県木材協同組合連合会、一般社団法人福島県電設業協会の関係者の御支援、御協力にこの場を借りて感謝申し上げます。